

# 会 議 録

## 1 会議名

平成27年度第5回保倉区地域協議会

## 2 議題

### 【諮問事項】

諮問第10号 新市建設計画の変更について（公開）

### 【協議事項】

地域活動支援事業に係る意見・課題及び改善策等について（公開）

## 3 開催日時

平成27年9月3日（木）午後6時00分から午後7時25分まで

## 4 開催場所

公民館保倉分館

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員： 宮川和市（会長）、小出一雄（副会長）、伊藤義雄、梅澤一了、大堀幸子、武田宗三、早津輝雄、吉田一枝、渡邊良禎（欠席2名）
- ・ 事務局： 北部まちづくりセンター：関川センター長、荒木係長、星野主任  
企画政策課：大島副課長、柳澤主任

## 8 発言の内容

### 【関川センター長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

### 【宮川会長】

- ・ 挨拶
- ・ 会議録の確認：吉田委員、梅澤委員に依頼

・議題【諮問事項】諮問第10号 新市建設計画の変更について、担当課に説明を求める

【企画政策課：大島副課長】

・資料No.1により説明

【宮川会長】

・説明に対して意見、質問等を求める

【渡邊委員】

第6次総合計画の時から疑問を呈して質問してきたが、私は保倉区の代表として、保倉区に限定して申したい。第6次総合計画の中で市街地と田園地域についての記載があるが、そこで「田園地域は農村地帯であり、農業を守らなければいけない」と書いてある。この内容は非常に役人的な考え方であると思う。過疎が進み、人が住まなくなれば、農業は守れない。中山間地域は、ある程度の国の補助なり、施策がある。しかし保倉のような場合、そのような施策は全然ない。田園地域は裏をかえせば、過疎地であるが、市は何の手も打ってはいない。私は下青野に住んでいるが、年を取ると住めない。理由は、私の集落は38戸あるが、私が見るところ、10年以内にはなくなってしまうと思われる。若い人がいない訳ではないが、ここには住んでいないのである。また運転免許を返納した場合に、生活ができなくなる。タクシーは頻繁には利用できず、また公共交通機関も減らされる一方である。それに対しての対策をせずに、「田園地域は水や空気がきれいだから米を作りなさい」という施策に対しては一考を要すると思っている。

また42ページには「住民が自分の住む地域に責任と誇りを持てるまちをつくる」と書いてある。

ただ都市計画としては、総論的に良くできていると思う。以前、第6次総合計画の時に市長が保倉分館に来られた時にも今と同じ質問をした。その時の市長の説明は、「年を取ったら駅の近くでマンションやアパートに住み、若者たちは一戸建てに住んで働く」いわゆる人口の集約化を図り、福祉関係の厚生施設を充実させるということであった。これは全国共通の考えだと思うが、それをされたら保倉はなくなってしまう。そのような実態について、どのようにして応えていくのか。私は現実的に即して、地域や農村を守ることは大事なことだと思うが、守るすべがない。

東頸城では必要な時に呼べば、バスが来てくれるということだった。その費用は公から出ている。しかし、保倉にはない。1日3～4本のバス、場合によってはそのバスがないところもある。以前は近所に若い人がいて頼めたが、今はそういう時代ではない。

それについて、第6次総合計画の是正の中で、どのように考えておられるのかを聞きたい。

**【企画政策課：大島副課長】**

第6次総合計画にしても、この新市建設計画にしても、上越市という地域をそれぞれエリアで分けて、それぞれの役割というものを市として考えているのは事実である。例えば高田、直江津、春日山は市街地であり、特に高田と直江津は中心市街地に位置付けながら、ある程度の商業の活性化などをして、人が集まるようなまちづくりをしようとしている。またこちら保倉や、北諏訪、諏訪、津有、新道といった田園地域については、ある程度農業の生産を行うエリアとして、農業を主軸とした産業になるような地域として位置付けている。その回りの中山間地については、自然を守り水源を涵養するエリアとして、概ね三つに分けながら、色々な計画を進めている。

ただ保倉区としてどういうことをやるべきか、例えば住宅開発をやるべきか、それともここに商店や市街地のような機能を持ってくることで賑わいを作るのか、また地域はどのような思いを持っているのかということは皆さんにお聞きしたいと思っていた。

集落が10年以内になくなってしまいうのではという心配の話もいただいたが、地域を限定するのではなく、もう少し人が減らないような施策を総合的に見ていかなければと思うのが一つ。例えば企業誘致をするとか、子育て支援制度で保育園を新しくするとか、病児預かりの医療施設をつくるとか、総合的にはやっちはいるが、なかなか人口が増えないというのが一番の市の悩みであり、長期的なスパン（期間）で考えていかなければいけないのかと思っている。

公共交通の話だが、浦川原と中郷をモデルとしながらデマンドバス（小型バス）や大型タクシーをバス代わりとして、地域のニーズに合わせて使用している。例えばそれを保倉区に引くということも施策の中ではありうると思う。今回は私が伺ったが、いろいろな場面で地域の課題として市にぶつけていただいても良いかと思う。

地域として、農業以外でどのような地域づくりをするかというのは、そこは地域として考えていただいて、私たちもそこに入らせていただきながら保倉をどうするかということは、これから考えていったらよいかと思う。大事な地域だと思っているので、一緒に考えていければとも思っている。

**【渡邊委員】**

保倉区では、十数年をかけてどうしたら保倉が活性化するのかということを考えてき

た。また最近では人口増、定住化対策についても考えている。定住化については、外部から呼び寄せるというのもあるが、現在住んでいる人たちが、いかに心地よく住み、この地を支えていけるような地域づくりをしなければならないと考えている。

昨年、農地の宅地利用について可能となったが、貸家、アパートは造るなという条件であった。活性化のためなら、貸家、アパートでも良いのではないかと思う。餌を投げたのに、食べようとすると取り上げるような策には、不満である。

最近、住みづらい、買物ができないということで他の地域に2所帯が移られた。知人、兄弟、親戚などに頼んで買物に行くとしてもそれほど頻繁には行けるわけがない。結局近くのコンビニに行って買物をするようになってしまった。コンビニがあればいいが、それもないところもある。社会インフラは実に遅れている。第6次総合計画は文章としては立派であり、素晴らしいと思うが、しかし明日の保倉を考えたときに、もっと具体的に示してほしいと思う。私の家からコンビニまで、距離にしてみれば350メートルほどであるが、交通量が多く、歩道もない。大型の車両がすれ違うときには、脇の草むらにタイヤがかかるほどである。高齢者はよろけてしまい、そのようなところは歩けない。それをいくら言っても、歩道は造ってもらえないし、ましてやそのような社会インフラであり、結局住めないということ、私は現実の問題として思っている。

#### 【宮川会長】

このような地元の意見を吸い上げながら、これからの施策に取り込んでいただければと思う。確かにここは市街地でもなく、農村地帯でもない中途半端な地域である。山間地や中山間地はそれなりに国から手厚い補助が出ている。今保倉区の小学校の生徒は八十数人である。これ以上減って学校がなくなると困るということから、定住化対策を考えながら、差し当たり子育て世帯が住めないかということを含めて始めたのが、今の市街化調整区域の一部見直しである。今、国が「地方創生」ということでいろいろなことをやっているが、なかなか我々のような中途半端なところでは手が届かないというのが実態だと思う。今、この20万人都市の山の中から海の果てまでのことを一つにまとめようとするならば、このような立派な文章になるのだろうと思う。今、皆さんが各地を回られている中で生の声を聞いていただいて、修正できるものはしながら、今後に活かしていただければと思っている。

#### 【渡邊委員】

こういう意見は他の協議会ではなかったのか。

例えば資料の16ページに「土地利用区分」に「田園地域」とある。確かに田園地域という言葉は聞こえがいいが、現実には即した施策を取ってほしいと思う。保倉区に対しては非常に冷たいものである。浦川原区は3つの小学校が合併された。保倉小学校をなくしたくないというのが私の思いだが、子どもがいなくなればどうしようもない。この保倉を地域住民が魅力のある場所とするために、地域住民が一生懸命考えなければならないが、それと併せて、行政からもアドバイスがあつて然るべきだと思う。こちらが提案を出して話をすると足を引っ張られてしまい、話が進まない。そのような市政では駄目だと思う。中山間地なら国の補助があるが、補助もなく、都合のいい時には旧市街地、都合の悪い時には中心市街地から外れているということで疎外化されてしまう。具体的な例を言えば、頸城や三和などは市の行事には上越市のバスが出る。ところが諏訪や保倉は公の行事があつてもバスが出ない。勝手に行きなさいということである。地域協議会主催でいろいろな講演会や講習会が高田や直江津で何回かあり、私は自分の車で行くが、頸城と私たちとは何が違うのか。頸城のほうが、よほど便利が良いのである。何故かと言えば保倉は旧市街地ということであつた。都合のいいときには旧市内で、そうでないときは市外だということである。私はそういうところをおかしいと思ったら是正してほしいと思う。不公平感はあると思う。

**【企画政策課：大島副課長】**

地域協議会の集まりがある時に、頸城区や浦川原区でバスが出るが、保倉区や北諏訪区の方にはバスが出ないということについては、事務局に預けたい。

いろいろと意見をいただいた。市は、基本的には逃げないできちんと対峙し、意見を伺い、それをどうするかということについて、決めなければいけないと思うし、また決めたいと思っている。市街化調整区域の話は非常にデリケートな話ではある。その利用が変わることによっていいことばかりではないと思っている。極端な話、都市計画地域には都市計画税がある。アパートがたくさんできる。商店ができるというのは良い面もあれば、悪い面もあるが、地域の方で保倉をどうしていくかということのを十数年来、議論されているということなので、そういう場所に市の職員を呼んでいただきながら、一緒に考えていくというのが良い。企画政策課が呼ばれば、企画政策課がその席に来るということである。

委員の言われた県道に歩道や横断歩道を造るということをして市に伝え、それを県に伝えるということは、土地の利用区分の見直しに比べれば、それほど難しいことではないと

思われる。実施するということに関しては、ハードルがあるのかも知れない。

**【渡邊委員】**

20年も待ってもできなかった。

**【梅澤委員】**

今、道路関係の事はそれほど難しくないとの話もあったが、そうではない。私も町内会長をしていたが、生活道路についても何もしてくれなかった。

先ほど冒頭で「人口減少時代になったため、市ではいろいろと考えている」と言われたが、それは前から市では分かっていたことではないのか。それに対して市は何の手を打ってきたのか。何もしてこなかった故に、このような状況になってしまった。

それから、私たちも高齢になってしまい、地域でいくら知恵を出したところで限界がある。それよりも、まず市役所が真剣になって考えていないと思う。地域の住民がいくら考えても限度がある。行政に頼らなければ、やはりできない。

それから、合併特例債が平成24年度で切れて、75億円も減るということは散々聞かされてきた。市は財源がなく、何もできないのだということで、私たちは、放っておかれてきた。生活道路でさえ直してくれない。そして今は、新クリーンセンター、新水族博物館、それはそれで大事かも知れないが、合併特例債の7割が補填され、そちらに使われるということになると、今まで我慢してくれと言われてきたものもあるが、市では何もできなくなるのではないか。いくら陳情をしても散々断られてきた。私たちのところは冬になれば猛吹雪になり、交通が遮断されてしまう。どうやって交通を確保するのか。それを何もしないでいて人口が減るのは当たり前である。皆、便利な所に移転してしまうのも当たり前である。それでも皆、我慢してなんとか住んでいる。通りのそばの方はいいが、我々のところはここから3キロも奥に入った所である。三和区の近くであり、本当は行政区で三和に入れてもらえればよかったとも思っている。

もう少し「合併特例債が75億減らされたので、皆さん我慢してください。上越市はお金がない」と言いながら、そのような大きい事業にお金を使われてしまえば、またお金が無くなり町内会長が陳情したところで同じことである。生活道路をまず、きちんとしていただきたい。町内会長として市に要望したが駄目であった。

**【企画政策課：大島副課長】**

人口について、平成25年は、新生児が1,600人、亡くなった方が2,500人で900人の差。高校卒業後、就職で出ていかれた分で700人の減。自然減で900

人と社会減で700人、計1,600人が減った。これは第二次ベビーブーム（昭和45年から52年まで）に生まれた方。40代くらいの方々は毎年3,300人生まれていた。その半分である。一番の問題は出生数が少ないということである。その背景には恐らく、子どもを産んでも教育費などの経済的な理由もあるし、そもそも結婚されていない方もおられる。そういったこともあり人口がなかなか増えないというのが一番の悩みである。人口を増やすには、単純に言うと、結婚を促して子育てをしやすい環境をつくって子どもをつくっていただく。あと年配の方々は長生きしていただくことである。それと工場や大学の誘致などのことを積み上げるしかないが、どれも簡単なことではないと承知している。それが上越市の人口減少の理由かと思われる。一昨年は1,600人の減少であったが、今後はおそらく2,000人くらいで推移すると考えている。

今の交付税の状況は、合併10年が経過したので、当初交付税は85億円が減るだろうと見込んでいた。幸い制度も合併市町村に有利に見直しをしていただいているため、7割くらいは確保したいと思っているが、それでも30億くらいはこれから減ると見込んでいる。市の職員も合併後500人減った。行政改革推進課も地域に伺い、公民館のことや学校の統廃合の話も出ていたかと思うが、その中で何とか行政の経費も減らしながら経費30億円を捻出しようとしているのが現状であり、決して裕福ではないのが事実である。その中でも施設を造らなければいけないのも事実であり、何とか遣り繰りしながら平成35年までは何とかしていかなければいけないのかと思っている。当然それ以降も決して楽観的な話はないと思っているので、なるべく無駄遣いしないように頑張っていきたい。

#### 【渡邊委員】

今から12年くらい前に、教育委員会で調べたが、新潟県全体で高校、専門学校、大学卒の流入と流出の差異はマイナス3,000人だと言われていた。ところが出生数が全く増えず、減っているのに今の流出は4,000人から5,000人くらい、県全体で出ている。上越市として人口流出の傾向をよく調べて、若者の対策というものはどうあるべきかについて真剣に考えなければならない。また保倉では第6次産業をどのように成長させ、若者を留めておくのかというような課題について、行政と地域が共に考えなければと思う。

#### 【企画政策課：大島副課長】

数字について分かりやすく説明する。平成25年に卒業した高校3年生の市民は

1,700人おられた。1,700人のうち、市内に就職した方が約500人、残りの1,200人は専門学校等への進学で、次の教育課程に進む。高校卒業の生徒は大体地元で8割就職する。その生徒は地元に残ってくれるのだが、一番問題なのは大学と専門学校で地元を離れた生徒はなかなか帰ってこない、それは帰ってきてても就職の場がないのである。そこが一番の問題である。大手企業も数社あるが、求人募集は全国的に行うため、地域の人材が採用されるということは少ない。個人的には高等教育を受けた生徒が戻ってくるが仕事がないというのが、上越市の一番の弱点だと思っている。

#### 【渡邊委員】

それには産業を創出しなければ、戻ってこないと考える。県外に出たからといって、大企業に勤めているわけではない。大学や専門学校の卒業生は沢山いる。昔の旧制大学と違い、とても沢山いる。彼らは皆、一流企業に勤めているわけではない。それよりも上越市でなんとか産業を創出し、少しでも定着率を上げるような策を考えてもらわなければと思う。

#### 【早津委員】

頼もしいと感じた。お願いであるが、農業委員会、都市整備課などとの庁内調整を行っていただきたい。

新市建設計画と第6次総合計画の目的の相違点を聞かせてほしい。

また、この新市建設計画の諮問と答申の前提として、この間の市政の検証をした上で、来られたのかどうかについてお聞きしたい。

#### 【企画政策課：大島副課長】

最初の点であるが、私から農業委員会なりに説明するのは吝かではないが、その説明の結果に対しての保証はできないということは御理解をお願いする。土地利用に関しては一番大きな内容だと思っている。農地法が一番難しいかと思われる。

二点目、6次総と新市建設計画の違いについて、新市建設計画は合併市をつくる上での建設計画であり、これは基本的に合併当初のものを大事にしており、必要最低限のものしか変えないという方針である。この計画を踏まえて、今後のまちづくりについては第6次総合計画に反映しようということで、第6次総合計画が一番直近の市の方針として考えている。新市建設計画との関連はあるが、新市建設計画とは別のまちづくり計画で福祉、教育、環境などの市政全般を捉えた計画である。

最後に市政の検証についてだが、新市建設計画の中では行っておらず、第5次総合計



画、そして新しい第6次総合計画に反映させながら検証し、次の計画を進めている。

**【早津委員】**

検証せずに住民に提示したということか。

**【企画政策課：大島副課長】**

2年前の改定時に検証を行った。それは8年が経過した背景による検証であった。この2年間の検証は新市建設計画には反映せずに、第6次総合計画の作成の時期であったため、そちらに反映したということである。

**【早津委員】**

全ての計画は連続しているものであるということではないのか。新市建設計画を総合計画に反映し、これが市の中短期計画という位置付けになるという説明があると思っていたが、それは違うのか。

**【企画政策課：大島副課長】**

変えるべきところは変えるが、変えないところは変えないということである。

**【早津委員】**

各計画の相関性についての答弁が不十分であるため、詳細な質問は控える。

先ほど梅澤委員が言われた中では、人口問題は最近始まったことではないということであった。

今回の選挙区の議員定数の見直しでは新潟県の定数が減る。面積では東京都は新潟県の20分の1しかないのに定数が増える。これは逆行している。こういう点が日本の将来を駄目にし、上越市も駄目にするとみている。若者は東京に出てしまう。上越市の職員は庁舎では机上での仕事をしているため、積極的な動きはなく、過去の統計資料を市民に示しているだけでしかない。

今後、行政が思い切ったことをしないと、無駄使いが沢山されてしまう。それで検証してくれと言っている。検証をしていないので、安易に市民にこのような計画を出してしまうのである。

**【宮川会長】**

- ・他に質疑を求める

**【渡邊委員】**

文章としてはよくできているが、この計画と現実の生活と照らし合わせた時に、これをどのように適応させ、住みよい地域をつくるかについて、もう少し心配りをしていた

だきたい。これについての修正を求めるものではない。

**【宮川会長】**

言われるとおりであると思う。今、ここで修正を求め、その回答を求めるというものではないと思われる。

**【早津委員】**

私は今回の計画について、検証が行われていない点について、不審を持っており、答申については反対である。

**【宮川会長】**

今回の諮問に関して、具体的な実行については、いろいろな意見が出ており、それらを参考にさせていただけるものと期待する。

今回の諮問について、賛成する方の挙手を求める。

(7名挙手)

今回の諮問には附帯意見を付けないが、今回の現場の声などを踏まえて、より良いものに仕上げることがを希望する。

**【企画政策課：大島副課長】**

いただいた課題は責任を持って担当課へ伝える。

**【宮川会長】**

切実な意見なので、お願いしたい。

諮問については「適当」と認め、これについての異議がなかったため、以上で終了する。

— 企画政策課 退席 —

**【宮川会長】**

・次年度に向けた「地域活動支援事業に係る意見・課題及び改善策等について」、事務局に説明を求める

**【星野主任】**

現時点で事務局への意見提出はなく、この場での協議をお願いする。

全市的な制度に対する意見については保倉区地域協議会として、市に報告するかどうか、協議し、保倉区内のものについては、今後保倉区の採択方針を協議する際に再度協議いただきたい。

**【宮川会長】**

- ・委員へ追加の意見を求めるがなく、意見なしということで委員の了承を得る

**【星野主任】**

- ・意見なしということで承る

**【宮川会長】**

- ・「諮問第9号上越セミナーハウスの廃止等について」、地域協議会の答申、教育総務課からの通知についての説明を求める

**【星野主任】**

- ・附帯意見の文言は事務局と会長で意見を基に作成
- ・教育総務課、社会教育課、体育課よりの通知内容について説明

**【宮川会長】**

この「地域住民」とは、保倉区を指しているのか。諮問に対しては、建てられた経緯もあり、それを踏まえての意見を述べたはずであった。

**【関川センター長】**

答申の内容を受けての「地域住民」であると考えられる。

**【宮川会長】**

その内容については、文言として入っていない。文言の追加は求めないが、その言葉についての配慮はお願いしたい。

**【関川センター長】**

そのようなお話があったことは担当課へお伝えする。

**【宮川会長】**

建てられた経緯に関しては、当時の一部関係者のみが承知しているものである。その点を踏まえて利用に役立てていただけるようにと、重ねてお願いをする。

報告に関しては終了とする。

- ・次回協議会について、事務局へ説明を求める

**【星野主任】**

- ・次回協議会への予定案件はなし

**【宮川会長】**

今後地域協議会の開催が必要な案件が発生した場合、その都度事務局と相談の上、また通知をしたい。

以上で本日の内容を終了する。

## 【小出副会長】

今日は市からの説明であったが、私、個人的には更新時期を迎えているインフラの維持管理がこれからどうなっていくのかということと、ガス水道や東北電力、あるいは国土交通省等を含めながら15年後、20年後に、果たしてインフラ整備がどうなっていくのかということのほうに心配なところである。また、機会を見ながら見通し等の説明を市からしていただけるようお願いしたい。

## 【宮川会長】

- ・閉会を宣言

### 9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

### 10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。